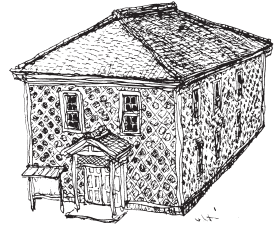


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875(明治8)年に開館した日本最初の演説会堂です。

● 塾長 長谷山 彰

変化の時代における慶應義塾

2020年冬号のこの稿では、東京オリンピック・パラリンピック開催の記念すべき年が、慶應義塾にとっても希望にあふれる一年となることを期待すると記しました。

蓋を開けてみれば、春先以降、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で世界中が鎖国状況に陥り、オリンピック・パラリンピックの開催は延期されました。義塾でも一貫教育校から大学までがすべて、安全を最優先に卒業式や入学式等の諸行事を延期ないし中止せざるを得ず、その後、政府による緊急事態宣言を受けて大学キャンパスは一時閉鎖、授業をオンライン型に切り替えて学問の継続を図りました。義塾が誇る「人間交際」(じんかいかい)「社中協力」の象徴である連合三田会大会も中止となり、各地の三田会も活動を縮小しています。2020年に病院開設100年を迎えた信濃町キャンパスでは、医学部・病院の関係者が文字通り命がけて感染症との闘

いを続けました。

そのような状況の中でも、教職員が一丸となって大学を守る工夫を凝らし、児童・生徒・学生も制約の多い不自由な状況に耐えて、学習に取り組んでくれました。また、医学部の塾生が詳細にわたる感染防止ガイドラインを作成し、それを学生団体である全塾協議会の塾生が協力して全塾生にWeb上で配信するという取り組みがあり、SFCでは、塾生が恒例の七夕祭にかわって、先端技術を駆使したバーチャル七夕祭を実現させ、三田キャンパスでは会場と観客をオンラインで結ぶハイブリッドな三田祭が開催されました。一貫教育校でも各校がオンラインを活用した学習発表会・文化祭などの企画を実現しています。苦しい状況の中で、塾生が学問を継続する強い意志を持ち、また次々と新しいアイデアを生み出していることについて、心からうれしく誇りに思います。

評議員会や連合三田会を中心に塾員も立ち上がり、緊急医療支援や塾生の修学支援のために募金活動を展開してくださいました。社中一致のご協力に心から感謝を申し上げます。

秋学期に入ってから、一貫教育校はほぼ通常登校に戻り、大学でも対面型とオンライン型のハイブリッドな授業が実施されています。体育会や学生団体の課外活動も段階的に再開しました。とはいえ、新型コロナウイルス感染症は未だ収束にはほど遠い状況です。今後、ウィズコロナからポストコロナへと推移したとしても、これを機に社会が大きく変化することは間違いありません。テレワーク、在宅勤務といった言葉に象徴される働き方改革はさらに加速するでしょう。企業の就業構造や採用形態も変化するはずです。世界の大学もオンラインを活用した新しい教育研究のプラットフォーム開発に力を入れています。慶應義塾でも大規模なオンライン授業実施の経験をもとに、今後の教育研究の新たな世界標準に適合すべく、授業支援システム(LMS)の充実やICTのインフラ整備、システムやセキュリティの強化に力を入れています。

新型コロナウイルス感染症の影響で人々は孤立を余儀なくされ、閉塞感からくる差別や中傷、暴力が発生しましたが、他方で、ネット上に沢山の癒やしや希望を与える動画が配信されるなど、インターネットによって世界は絆を保ちました。近年、急速に進歩するAI、IoTやロボティクス等のテクノロジーが人類の脅威になるという懸念の声もありましたが、テクノロジーと人間の調和を図ることがこの危機を乗り越え、新しい社会をデザインする可能性を高めます。もちろん、テ

レワークやオンライン授業で人間関係が希薄化する傾向があることも否定できず、社会を成り立たせているものが人間関係であることを忘れてはなりません。人間性を大切に改革の中で、テクノロジーを上手に活用し、未来を切り拓く努力が求められていると思います。

今、各キャンパスでは変化に対応すべくさまざまな教育研究の新しい取り組みが始まっています。信濃町キャンパスでは、破傷風の血清療法を確立した初代医学部長・病院長の北里柴三郎のあだ名「ドンネル(ドイツ語の雷)先生」にちなむ「慶應ドンネルプロジェクト」が発足し、新型コロナウイルス(SARSCoV-2)の解明と制圧をめざす多数の研究者が基礎・臨床一体となって多面的な研究を進め、教職員がチームを組んでそれを支える大規模な複合プロジェクトに発展して、成果を出しはじめています。

今春には、三田キャンパスに、日本の近代化と共に歩んできた慶應義塾の歴史を展示する「福澤諭吉記念慶應義塾史展示館」と、デジタルとアナログが融合し、教育研究の発信拠点となる新しいタイプの博物館である「Keio Museum Commons (KeMCo)」の二つが、義塾の伝統と進化を体現する展示施設として開館します。

テクノロジーと人間が調和する社会を実現するためには、科学と人文学の境を超えて学問分野を横断する融合的な教育と研究が必要であり、総合大学としての慶應義塾の役割はますます重要になっています。2021年も義塾社中の皆様と共に慶應義塾の発展をめざして力を尽くしてまいります。